

令和7年度の新入居者を2組募集します。

募集期間

2024 9月2日(月) → 10月31日(木)

— 応募方法 —

申請書及び必要書類を台東区役所産業振興課へ持参又は郵送

— 説明会(内覧会) —

第一回：9月25日(水)15時～(参加申込締切：9月20日)

第二回：10月20日(日)14時～(参加申込締切：10月17日)

施設公開：10月18日(金)～20日(日)10～17時(参加申込不要)

— 入居期間 —

令和7年4月1日から3年以内 *1年ごとに更新審査有

— 支援内容例 —

経営やビジネスに関する相談

商品開発のための調査、技術的な相談

販売促進などの相談、サポート

情報の発信と提供

ビジネスに役立つ知識の習得

業界との交流、ネットワークづくり、地域との交流等

— 入居資格(一部抜粋) —

1. 皮革関連製品をはじめとする台東区内の地場産業等(靴、鞆、ハンドバッグ、ベルト、帽子、アクセサリ、ジュエリー等)のものづくりを担っていく意欲のある職人・クリエイター等であること。
2. 台東区内で創業を予定している者、または創業5年以内(令和7年4月1日時点)の者であること。
3. ビジネスを拡大する意欲が高く、また創業のための支援が必要と認められること。
4. 浅草ものづくり工房の周知や事業に協力すること。
5. 台東区内の地場産業や地域の活性化に寄与する活動を行う意欲があること。
6. 施設の利用期間終了後、台東区内において引き続き事業を行う意思があること。

— 応募先・問合せ先 —

台東区役所 文化産業観光部 産業振興課(9階⑤窓口)
〒110-8615 台東区東上野 4-5-6 tel: 03-5246-1131
sangyo@city.taito.tokyo.jp

第12回
施設公開

入居クリエイターのアトリエ公開・販売会を行う、
年に一度の特別な3日間

2024 10/18(金), 19(土), 20(日)

10:00-17:00

会場：浅草ものづくり工房(ものこぼ)台東区産業研修センター内

入場無料

お問い合わせ：03-3872-6780

最新情報をチェック!



あらためましてこんにちは。浅草ものづくり工房、略してものこぼです。

ものこぼ

Asakusa MONOKOBO Studio
浅草ものづくり工房

2024
施設案内



<https://monokobo9.com/>

—東京都台東区— 江戸時代から続く、ものづくりの聖地

台東区には、江戸時代から同じ業種の人たちが集まって住む地域がいくつかあり、それが令和の今にもまだ何ヶ所か残っています。

そのうちのひとつがここ、奥浅草一帯です。もともと浅草には芝居小屋があり、芝居で使う小道具(細工物)、中でも履物を作る職人が集まっていた場所。

男伊達といわれた火消しの頭が着る革半纏をはじめ、煙草入れなどの袋物を作る職人も多く住んでいました。

明治に入り、洋装が入ってくると同時に靴が必要になり、今まで日本になかった靴を作るために革職人と履物職人が尽力することに。

その両方が集まる浅草周辺は、靴づくり、さらにはバッグや帽子などの洋装小物を作る街へと変化していきました。

令和の現在も、浅草ものづくり工房がある奥浅草は、靴を中心とした皮革関連産業が盛んで、問屋やメーカー、各種加工所やパーツ企業などが集積しています。

浅草ものづくり工房は、こうした地元企業とも連携し、入居者の新しい感性と、長年ものづくりに携わってきた企業の経験と知識を結んで、相互に刺激しあい、発展していけるようなプラットフォーム的存在を目指し、将来に繋げていきます。

浅草ものづくり工房

浅草ものづくり工房(通称ものこぼ)は、台東区の地場産業発展の力となる、個人や創業間もない法人を育成支援するため、平成21年12月に開設された創業支援施設です。

台東区の地場産業であるファッションやライフスタイル関連の産業をメインに、今後台東区を拠点として事業を展開したい人々を対象に、年一回、入居者を公募しています。

全部で9室の工房があり、一回の募集で3組程度の入居者を決定します。入居期間は原則3年以内で、一年ごとに更新審

査があります。入居期間中はインキュベーションコンサルティングなどビジネス競争力をつけるための支援や、ものづくりに携わる地元企業団体などと連携や交流を図っていきます。

入居者のみなさんが3年の間に、やりたいことをビジネスとして続けられる力をつけるよう様々な支援を行うのが、浅草ものづくり工房です。期間終了後、台東区内で起業し、活躍している卒業生も多くおります。卒業とともに、台東区で地場産業の活性化に一役買う、新しい力になってくれることを期待します。

浅草ものづくり工房(ものこぼ)

〒111-0023 東京都台東区橋場1-36-2 台東区立産業研修センター内

施設管理人:  **Blue Marble**
(石塚杏梨 BLUE MARBLE / NEW ENERGY TOKYO プロデューサー、櫻井利信 NEW ENERGY TOKYO キュレーター)

施設への訪問をご希望の方は、事前にお問い合わせください。(施設公開は年に1回です)
asakusa.koubou@gmail.com



201号室 FERMI+
安部 陽光
革小物
FERMI+は“世の中のない新しいアイデアをカタチにする”をコンセプトとした、全く新しい形のファッションブランドです。

202号室 WAL
渡辺 健太
スニーカー・インソール
ドイツ整形靴技術を用い、歩行の快適さを追求するオーダーズニーカー・インソールブランドです。

301号室 BASE. shoemakers
上林 望
靴
気楽に履ける革くつをコンセプトに、日常に溶け込むレザーシューズを製作しています。ちょっとした散歩、思い出に残る旅行や勝負のデートのときの足元を支えます。

302号室 amenez-moil
勅使河原 由美子
革バック
手縫いにより生まれた揺らぎのある線から温もりや癒しを感じて、日々の暮らしを楽しいものにコンセプトに「手仕事の暖かさや丁寧さ、暮らしに溶け込むこと」を大切にものづくりを行っています。



303号室 dito
増淵 文也, 石井 快
靴
“Un dito di vino”グラスに指を真っ直ぐ立てて美味しいワインを一杯注ぐように、履き心地の良い靴を一杯履いて楽しむ。



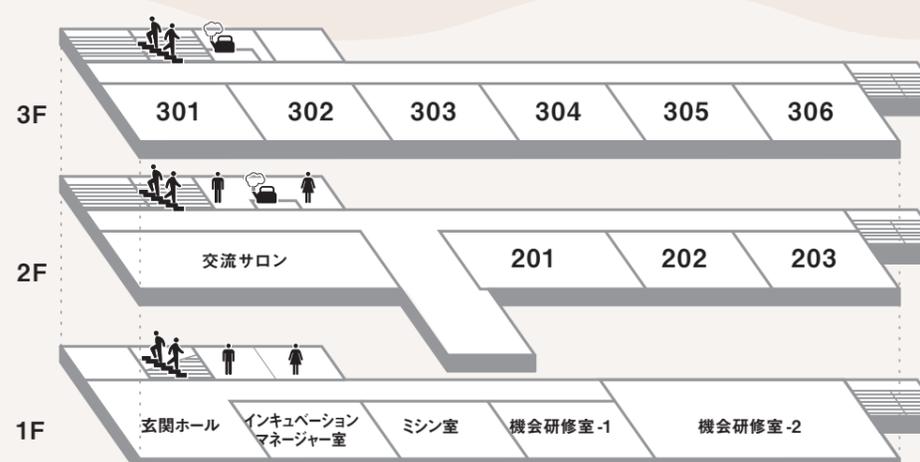
304号室 Tommelise
田中 妙佳
ジュエリー
洋服を季節によって変えて楽しむように、ジュエリーでも四季を楽しむということがポピュラーになれば、1日1日がより煌めくのではと考えています。



305号室 BLUEGE
橋本 香織, 坂田 康子
革小物製品
「心がちょっとときめくレザーブランド」をコンセプトに、思わず手に取りたくなる魅力的な革とハットする色使いで雑貨を製作。猫と飼い主がお揃いで使える「愛猫家のための革製品」も展開。



306号室 MAKAMI
久津 真実
ジビエレザーを使った革小物・靴
人々の生活を守るため、殺めなければならぬ命なら、せめてそれらは余すことなく生かそう。鹿、猪、ときどき熊。自然との命の循環を目指すブランド。



台東区の地場産業である
皮革製品やジュエリーを中心に、
8組の若手職人・デザイナーが
切磋琢磨しながら活動をしています。